

編集長が地域の皆さんに  
インタビュー!

## 子どもたちが自由に過ごせる居場所づくりを目指す 「こどもくらぶ」代表の藤澤千絵さんにお話を伺いました。

小久保/こどもくらぶの活動を始めたきっかけは?

藤澤/2000年

から知人のお子さんを預かったのがきっかけで、自宅を開放して遊び場所にしていました。庭で野菜を育てたり、基地をつくったり、ハロウィンなどのイベントをやったり。その子どもたちが成人式を迎えた時に「とてもいい思い出だった」と言われて、継続しやりたいなど。

2004年から現スタッフの藤井

麗さんと青葉会館2階で集団遊びを毎週開催するようになり、NPOにいま村子育て事業部になりました。島の講師を呼び、「アフリカの太鼓あそび」「志茂田景樹読み聞かせ」なども主宰しましたが、活動を継続する上でどういう形が新島村にマッチしているのか模索していました。

ちょうど国も厚生労働省と文部科学省連携の「放課後子ども総合プラン」を策定している頃で、子どもたちの居場所づくりの勉強会や、他の自治体の形態を調べたりして、2016年から新島村より委託を受け「放課後こども

くらぶ」「寺子屋事業」「多世代交流事業」を始めました。2020年からは式根島事業もスタートしています。

小久保/放課後こどもくらぶは本当に自由ですね。

藤澤/遊びを通して子どもたちのアタマ・カラダ・ココロの成長を応援する居場所づくりが目的なので、自分の責任で考えて自由に過ごせる、いるだけでいい場所です。子どもは遊ぶ中でケガやケンカをしたり、考えたり、気がついたりします。そうするとだんだん自立していきます。1学期には「何する?」と言っていた子が3学期には「何しよう!」になるんです。そんな子どもたちに私もパワーをもらっています。

小久保/今後のこどもくらぶは?

藤澤/こどもくらぶがなくても、地域の中で多世代とつながって「子育て」できるのが理想ですが、それにはもう少し時間が必要ですね。こども

くらぶで遊んでいた子が高校生になつて参加してくれると、みんなとても喜ぶます。高校生は「自分がしてもらって楽しかったから」と言っています。もつと大人や赤ちゃん、おじいちゃんおばちゃんにも来てほしいです。子どもだけでなく誰にとつても居場所になるといいなと思います。

### 編集後記

前期に引き続き、今期も広報編集委員長を努めさせていただくことになりました。今期からは議員10人全員が広報編集委員になり、誌面のデザインもリニューアル。また新たな気持ちで、議会広報を通じて住民の皆さまに議会をわかりやすく発信していこうと思えます。議員全員がしっかりと関わる議会だよりを目指し、住民の皆さまに隅々まで読んでいただける紙面づくりを心がけていきますので、よろしくお願ひいたします。

小久保 利佳



藤澤千絵さんプロフィール

昭和42年9月11日生まれ

東京都出身。藤村女子高等学校卒業後、体操教室とスイミングコーチを経て結婚後、新島に移住。(写真:こどもくらぶのメインスタッフと。左から2番目が藤澤さん)